

# 土木学会 建設マネジメント委員会 研究成果発表会(2009年度) 報告

2009年8月20日  
研究問題検討小委員会

## 1. 目的

土木学会 建設マネジメント委員会（委員長：福田 昌史）では13の研究小委員会を設け（内1つは特別小委員会）、建設マネジメントに関する研究を行っている。これらの研究成果の普及に資することを目的とし、2008年度の研究小委員会の活動から、次表に示すテーマに関して発表会を開催した。

## 2. 概要

研究成果発表会の開催日時と発表プログラムは下表の通りである。

日 時：平成21年8月5日（水）13：00～17：30

場 所：（社）土木学会 講堂

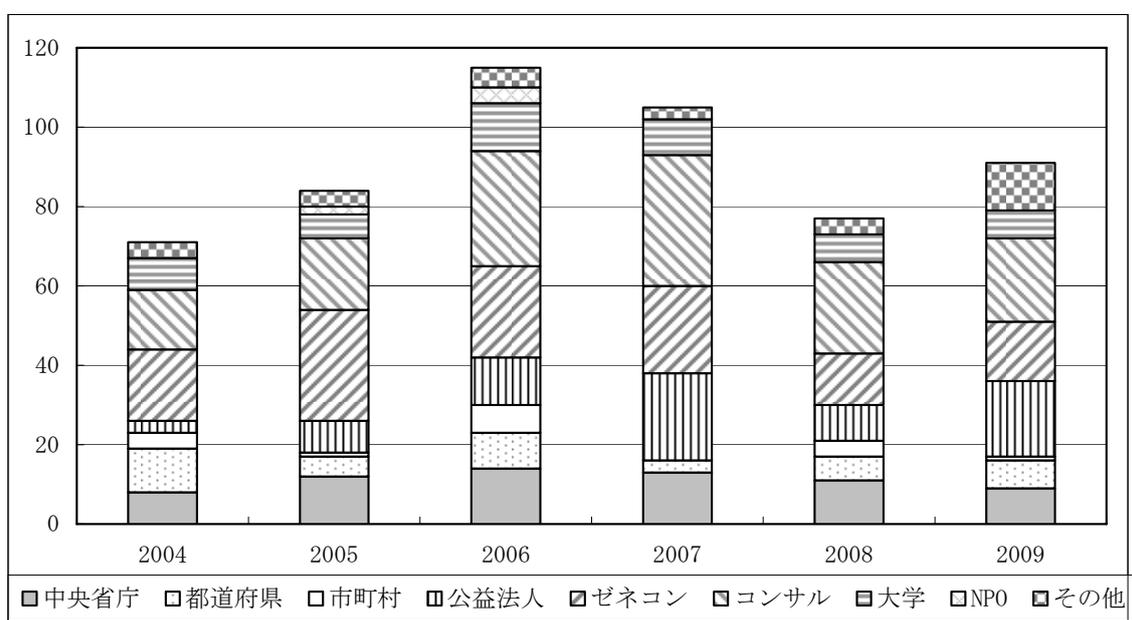
### 2009年度 建設マネジメント委員会 研究成果発表会 発表プログラム

研究成果発表会（2009年度）		
13:00～13:10	開会の挨拶	建設マネジメント委員会：福田昌史 委員長
13:10～13:50	わが国道路事業へのPFI/PPP導入に向けて 導入検討の視点/リスクマネジメントの具体化/ 課題分析及提案	インフラPFI研究小委員会 小委員長：宮本和明（東京都市大学） 発表者：宮本和明（東京都市大学） 発表者：大島邦彦（(株)熊谷組） 発表者：渡会英明（(株)建設技術研究所）
13:50～14:20	土壌汚染により流動化できない土地等に対し、PFI 等のマネジメント手法導入の研究	環境修復事業マネジメント研究小委員会 小委員長：下池季樹（国際環境リユージョンズ(株)） 発表者：下池季樹（国際環境リユージョンズ(株)）
14:20～15:00	地方都市の中心市街地再生・郊外農業社会整備プロ ジェクトの構想 ー循環型環境システムの下での持続可能な 社会形成と効果的地域施設マネジメントを目指し てー	地域施設マネジメントシステム研究小委員会 小委員長：春名 攻（立命館大学） 発表者：春名 攻（立命館大学）
15:00～15:10	休 憩	
15:10～15:40	「技術公務員の役割と責務検討委員会」の活動状況	技術公務員の役割と責務研究小委員会 小委員長：中村一平（金沢工業大学） 発表者：石田篤史（岡山県 美作県民局）
15:40～16:20	建設プロジェクトに係わる保険制度の現状と課題	建設工事保険のあり方研究小委員会 小委員長：山本幸司（名古屋工業大学） 発表者：中井一雄（東京海上日動火災保険(株)） 発表者：島 誠一（東京海上日動火災保険(株)） 発表者：岩田 誠（前田建設工業(株)）
16:20～16:45	公共工事における三者方式実現の必要性和課題	公共事業三者方式実現研究小委員会 小委員長：草柳俊二（高知工科大学） 発表者：山浦直人（長野県）
16:45～17:20	公共調達結果のモニタリング研究の実現と課題	公共調達制度評価研究小委員会 （現、特別小委員会） 小委員長：滑川 達（徳島大学） 発表者：滑川 達（徳島大学）
17:20～17:30	閉会の挨拶	研究問題検討小委員会：三百田敏夫 小委員長

### 3. 参加状況

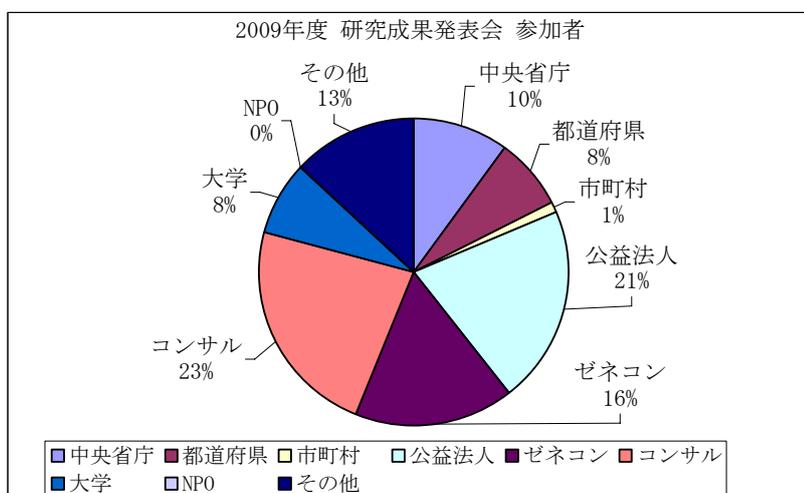
成果発表会の参加状況に関しては、事前申込（2009/08/04迄）が61名、当日参加等も含めた最終的な参加人数が91名と昨年度より増加した。

区分	2004	2005	2006	2007	2008	2009
中央省庁	8	12	14	13	11	9
都道府県	11	5	9	3	6	7
市町村	4	1	7	0	4	1
公益法人	3	8	12	22	9	19
ゼネコン	18	28	23	22	13	15
コンサル	15	18	29	33	23	21
大学	8	6	12	9	7	7
NPO	0	2	4	0	0	0
その他	4	4	5	3	4	12
合計	71	84	115	105	77	91



2009年度

区分	参加者数
中央省庁	9
都道府県	7
市町村	1
公益法人	19
ゼネコン	15
コンサル	21
大学	7
NPO	0
その他	12
合計	91



— 参加状況の推移 —



－ 発表会当日の様子 －

#### 4. 発表会に向けた取り組み等について

##### (1) 発表会に向けた取り組み

- 本年度は、発表応募のあった7つのテーマ（インフラ PFI、環境修復事業マネジメント、地域施設マネジメントシステム、技術公務員の役割と責務、建設工事保険のあり方、公共事業三者方式実現、公共調達制度評価）の研究成果に関して発表会を開催した。
- 発表会の約1ヶ月前には、建設マネジメント委員会のホームページに開催プログラムを掲載するとともに、各研究小委員会の講演用テキストを適宜、掲載した。
- 本年度も会場参加者へ成果発表会に対するアンケート調査を実施した。（調査結果は後述）

(2) 発表会を終えて

- アンケート調査結果によれば『成果発表会に参加し、参考になった』と回答された方が40名（約70%）を占め、多くの参加者の方に満足戴けたものとする。
- 参加者の年齢構成を見ると、30代～50代の方が46名（79%）を占めるのに対し、20代の方は2名（3%）と非常に少ない状況にある。建設マネジメント委員会の研究活動を活性化するためにも、昨年度同様、若手技術者の参画に向けたPRも重要と考える。
- 3. 参加状況に示したとおり、参加者が昨年度より増加した主要因としては、昨年度よりも広報活動を早く開始し、関係機関への周知が図られた点等が考えられる。
- 今回の発表では、7つのテーマを発表して戴き昨年度の4テーマよりも増加したが、テーマ数が多いという意見も見られた。次年度の研究成果発表会に向けては、重要度の高いテーマに絞る等の工夫も必要と考える。

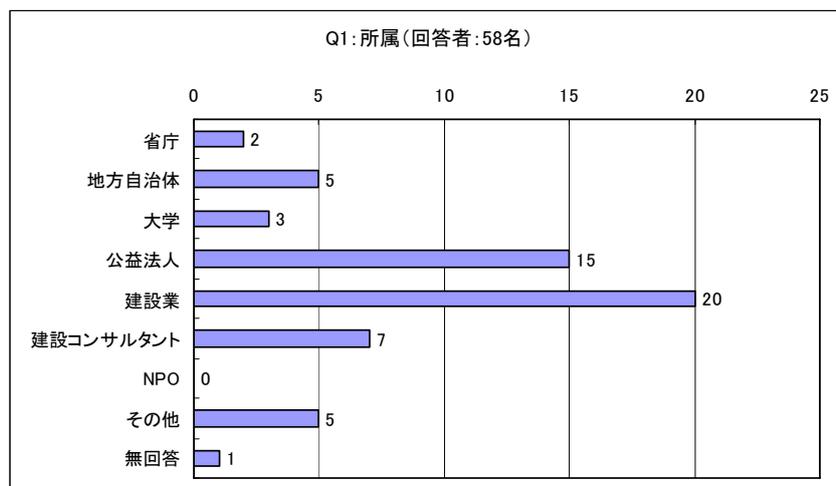
(3) 今後の方向性

- 先述のとおり、昨年度に引き続き、成果発表会に対するアンケート調査を実施した。本調査で得られた成果発表会に対する意見等を踏まえ、今後の委員会活動に反映できるようフィードバックしたいと考える。（ex. 研究小委員会の成果の公表を含めた情報発信等）
- 研究成果発表会は、昨年度同様土木学会（講堂）において、多岐に渡る研究テーマをまとめて発表する形で開催したが、将来的には個別の研究テーマ毎に成果発表会等を開催するなど、活動を拡大していくことも必要と考える。
- 研究テーマの発表&質疑応答のみならず、パネルディスカッションも導入するなど、参加者にとってより有意義となる内容構成を考えていく必要がある。

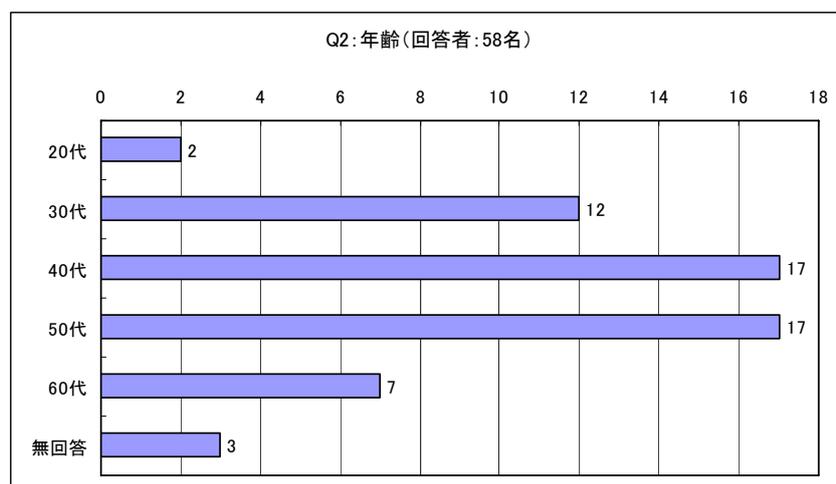
以 上

《 研究成果発表会 アンケート調査結果 》

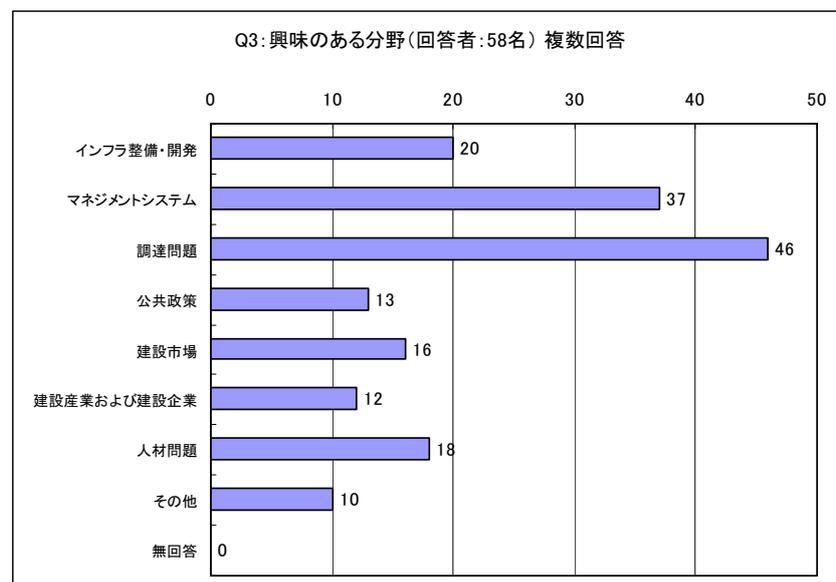
(1) 回答者の所属構成



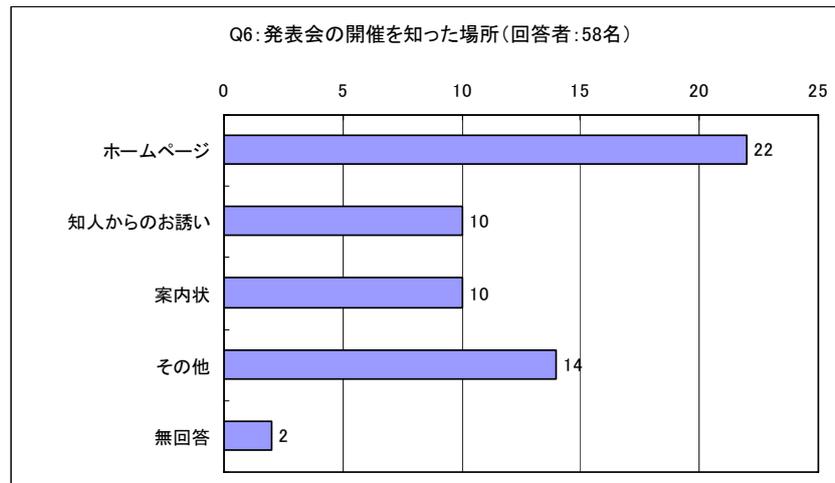
(2) 回答者の年齢構成



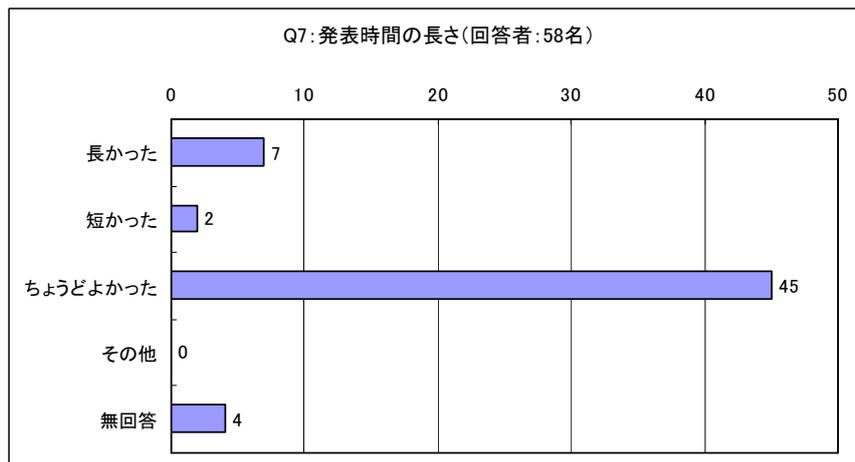
(3) 興味のある分野 (大分類)



(4) 開催を知った場所



(5) 発表時間の長さ



(6) 参加目的の達成

